光市高潮ハザードマップ

～ 高潮避難地図（光市東部版）～

《高潮に備えて》

もしも、海の水が押し寄せてきたら、あなたはどうしますか？

- 台風が光市に接近したときには、高潮発生のおそれがあります。
- 高潮とは、台風の気圧や暴風の影響により海面が異常に上昇する現象です。この海水が陸地に浸水すると、非常に危険です。
- このマップは、非常に大きな台風の接近により、大規模な高潮が発生した場合の状況と、その時にあなたがどこに避難すればよいかを示した地図です。
- いざという時のために、家族や隣近所で話し合っておきましょう。

自分の家や避難先・避難路を確認しておきましょう

我が家の防災メモ

我が家の避難（集合）場所と連絡先

場所/　　電話番号/

家族の緊急連絡先

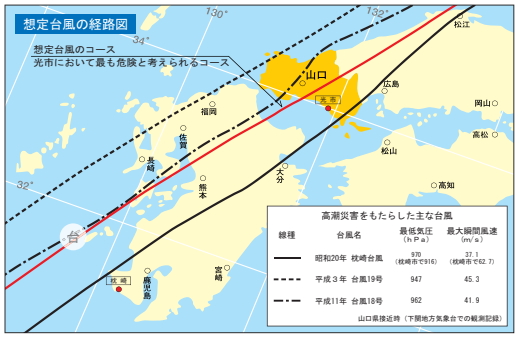
名　前	学校・勤務先	電話番号

その他の連絡先　（親類や知人など連絡のとりやすい人を記入してください）

機関名・氏名	電話番号

浸水予測を行った台風の想定

このマップは、光市において最も危険と考えられる台風のコースで、枕崎台風規模の台風が襲来した場合を想定し作成しています。この場合、裏面の地図の色づけした部分が浸水する可能性があります。浸水の危険度に応じて３色に色分けしていますので、自宅などの危険度を確かめてください。



※台風が九州付近に接近し、南～南東の強風が吹くと、高潮の危険性があります。
※光市の西側を台風が通過すると、台風の進むスピードと風のスピードが重なって、高潮が大きくなる傾向があるので注意が必要です。

想定台風の規模

枕崎台風（鹿児島県枕崎市で916hPa）規模の台風を想定しています。

《枕崎台風とは？》

終戦直後の昭和20年（1945年）9月17日～18日に来襲した超巨大台風で、伊勢湾台風や室戸台風とならぶ昭和の三大台風のひとつです。

秋雨前線の活動と台風の来襲が重なり、長時間の暴風雨となったため、山口県では、激しい豪雨による河川の氾濫や高潮など、県下全体で死者・行方不明者701人を数える大災害となりました。

①②平成３年の台風19号による光井地区の被災写真（平成3年9月27日）
③　平成11年の台風18号による虹ヶ浜地区の被災写真（平成11年9月24日）

高潮発生のメカニズムと潮位

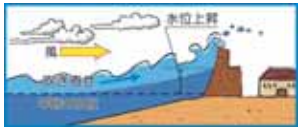
高潮は、台風により発生します。①気圧の低下による海面の吸い上げと、②強風による吹き寄せの影響で海面の潮位が上がり、場所により異なります。

①気圧低下による海面の吸い上げ

台風の中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気は海面を押し付けるように、また、中心付近の大気は海面を吸い上げるように作用します。この結果、海水がこれとつりあうように流動し、台風中心に向かって水面が上昇します。

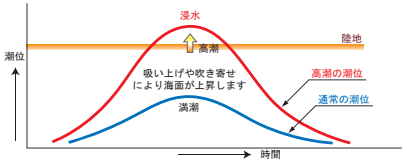
②風による吹き寄せ

強い風が海岸部に向け長時間にわたり吹き続けると、風下の海岸に海水を吹き寄せます。このため、海面が異常に上昇します。



③高潮の潮位

大潮期の満潮と高潮のピークが重なると、海面がたいへん上昇しやすく危険です。



【高潮の模式図】

※大雨により河川の水位が上昇しているときは、河口付近ではさらに水位が高くなるおそれがあります。

浸水時の危険

■浸水時の状況

- 高潮になると、海から道路や水路に濁流が流れ、住宅や車などが浸水します。
- 50cmの浸水では、大人のひざほどの高さとなります。1mの浸水では、大人の胸ほどの高さとなります。
- 浸水時には、車のブレーキが効かなくなるなど、運転は危険です。
- 濁流で路面が見えません。窪みで転倒したり、水路に転落する危険があります。
- 暴風雨や漂流物で歩きにくいだけでなく、ケガをする危険があります。
  ※河川や水路からも高潮が遡上し、浸水することがあります。

■浸水の危険度

- 高潮避難地図は、浸水が予測される区域を３色にランク分けしています。
- これは、浸水の深さと浸水が到達する時間の早さの両面から、危険度を判定し、事前に避難を要する重要度の目安を表したものです。

■浸水時の避難の危険

基本は事前の避難です。浸水が始まる前に、できるだけ海や川から離れ、高台や頑丈な建物の２階や避難所などに自主的に避難しましょう。

※危険を伴いますが、浸水時にやむを得ず避難するときは、近くの安全な場所へ一旦避難をし、次のことに注意してください。

①履物
運動靴が最適です。長靴は水深が深いと中に水が溜まるので動きにくくなります。素足は大変危険です。

②足元に注意
水の中に何があるかわかりません。安全を確認しながら進みましょう。

③歩ける深さ
歩ける深さはひざぐらいまで。
腰まで浸かって歩くと体力を消耗します。
流れがあるときは20cmでも危険なときもあります。

④高齢者や障害者、子供など
移動が難しい方たちには、一緒に避難の手助けをお願いします。
はぐれないよう、お互いの安全確認を心がけましょう。

連絡先やお問合せ先

災害時の緊急連絡先

光警察署	０８３３－７２－０１１０（代）	●緊急時　１１０
光地区消防本部	０８３３－７４－５６００（代）	●緊急時　１１９
光市役所	０８３３－７２－１４００（代）	

避難情報の確認

光市防災広報ダイヤル　（電話番号　０８３３－７２－１４１０）
光市ホームページ　URL　http://www.city.hikari.lg.jp/

台風接近の際には、避難所の開設や避難勧告等の情報を「防災広報ダイヤル」や「光市ホームページ」で随時更新しています。情報の確認にご利用ください。
※回線に限りがありますので、不通のときは時間をおいてお掛け直しください。
※ホームページには、光市高潮ハザードマップも掲載しています。

台風・高潮（潮位等）に関する情報

ＮＴＴの気象情報　（電話番号　１７７）

- 下関地方気象台発表の気象情報（高潮警報等）を、聞くことができます。
- 防府港の満潮、干潮の時刻などを知ることができますので、光市における潮位の目安にしてください。

山口県土木防災情報システム（インターネット）

- 「潮位情報」では、光観測局（光市光井）の潮位や気圧等をご覧いただけます。
- その他、山口県内の雨量、河川の水位情報や気象情報を、リアルタイムに配信しています。

ＨＰアドレス　http://y-bousai.pref.yamaguchi.lg.jp
※携帯電話からもご利用できます。

電話による安否確認や伝言

ＮＴＴ災害用伝言ダイヤル１７１　（電話番号　１７１）

大災害時に電話がかかりにくい場合、家族の安否確認や伝言を行うことができます。
全国どちらからでも使用できます。
電話局番「１７１」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。

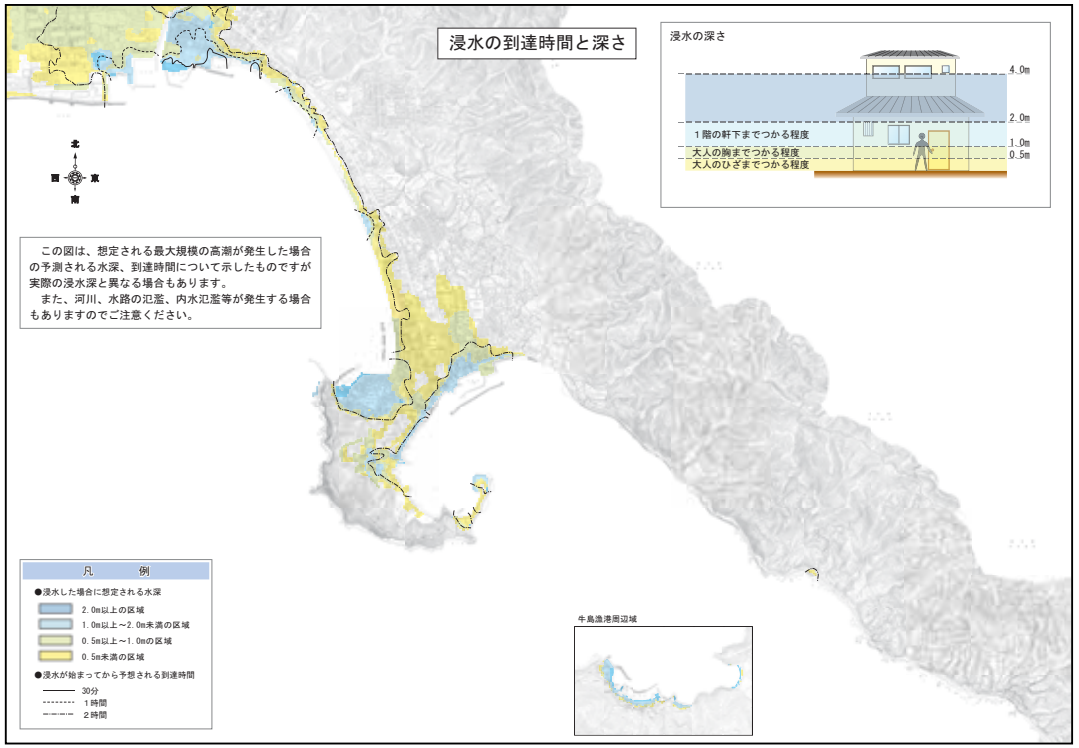
携帯電話の災害用伝言板（携帯電話ウェブ）

携帯電話を利用して、家族の安否確認や伝言を行うことができます。詳しいご利用方法は、各携帯会社のホームページ等をご覧ください。

マップに関するお問合せ先
光市役所　総務課・土木課　０８３３－７２－１４００

平成18年9月作成

浸水の到達時間と深さ



避難の心得

- 日頃から非常持出品の準備や備蓄をし、いざというときの避難場所や連絡先を話し合っておきましょう。
- テレビ、ラジオの台風情報、高潮警報に注意しましょう。

- 危険を感じたら、早めに、自主的に事前避難してください。
  ※市では、皆様の連絡、台風・高潮の状況等により自主避難所を開設します。
  ※高潮浸水の恐れがある地域には、市が避難勧告等を発令しますが、危険を感じたら自主的に避難しましょう。
  ※避難の呼びかけに注意し、ただちに避難をお願いします。

- 避難所への移動が困難な場合や緊急時は、できるだけ海から離れ、高台や頑丈な建物などに一旦避難し、安全を確保しましょう。
- 障害のある方や高齢者、子供などの避難援助をお願いします。
  ※危険の判断や移動が困難なため、避難に時間がかかります。
- 隣近所に声を掛け合い、単独行動は慎みましょう。
- 避難時は、溝や水路、土砂災害に注意しましょう。
- 自動車での避難は止めましょう。交通渋滞や事故をまねきます。

～そろえておきたい非常持出品の例～

※その他、着替えやタオルなどもそろえておくと良いでしょう。